

1/700 シーウェイモデル No.⑤

日本駆逐艦

JAPAN NAVY DESTROYER

SAKURA 桜 さくら

CE FUJIMI EUROPA

Chaussee de Wavre 1183

1160 BRUXELLES BELGIUM

LA CAUSE NEED RETAIN ADDRESS

PAR AVION OR PAR COURRIER SCHRIFT AUFBEWAHREN

GARDER CET EMBALLAGE OU RECOPIER CES INFORMATIONS

CONSERVARE QUESTO INDIRIZZO

FIQUE COM O ENDEREÇO

FAVOR GUARDAR DIRECCION

9SP5SA

本商品は危険物表示法による接着剤品質表示取扱い上の注意

1. 効率の手の届かないところに保管し、

いたずらしない様注意して下さい。

2. 火気には注意し換気をよしくして下さい。

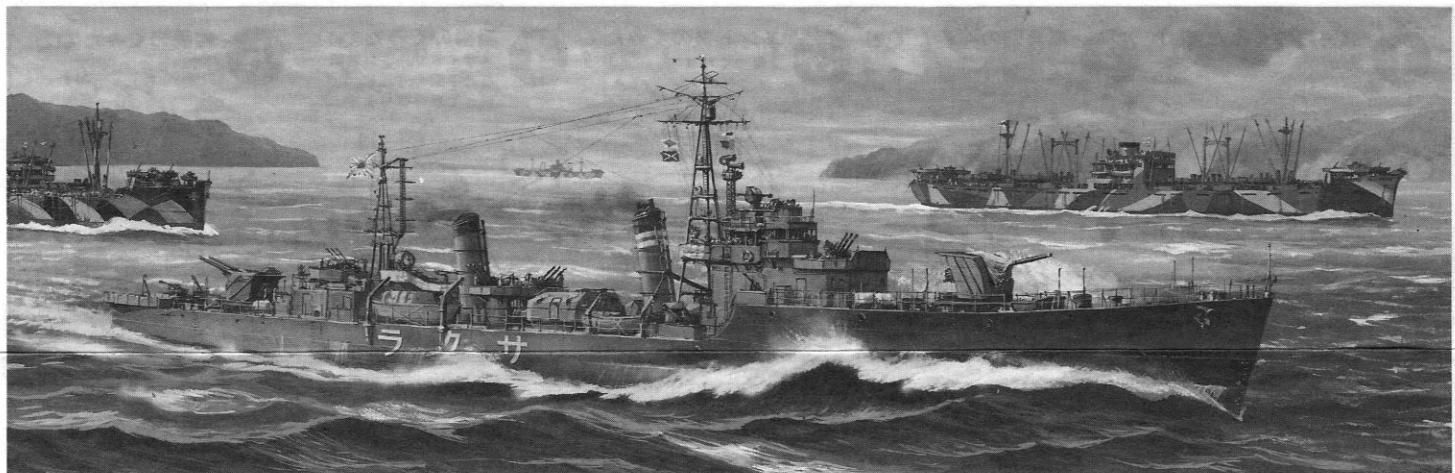
3. 故障に陥らない様注意して下さい。

表示者 S2300 S2306 S25013

部品を取出した空器は、幼児が被ったりしな

い様に破り不得て下さい。

FUJIMI



## SEAWAY MODEL

### 〈駆逐艦桜について〉

太平洋戦争開始と共に、優れた性能を持って、各海戦に活躍した艦隊駆逐艦や、全く新らしい任務を担って登場した、防空駆逐艦秋月型も、それ等は皆、戦争前の理論から生まれたものがありました。常に第一線で活躍したり、敵勢力下の悪条件を克服して、強行突破を敢行したり、ソロモン海域を中心に、日本駆逐艦の損耗は次第に激しくなりました。そして、昭和18年、19年に於ける征来駆逐艦の建造予想は、損耗量を補う量に遠く及ばない事がわかり、戦局の後退と、補給線の確保が次第にむつかしくなり、資材の不足が目立ってきました。

そこで、限られた資材の有効な使用と、短期間に、出来る限りの多数の駆逐艦建造の必要に迫られました。種々の検討が行われた結果、昭和18年2月に基本計画がまとまりました。当時、目ざましい航空戦力の発展によって、航空機の、海上決

戦に占める役割は大きく、為に、戦前予想した海戦とは、構造が全く異ってきました。駆逐艦もその例にもれず、任務も次第に船団護衛や上陸作戦支援が主要になり、戦前の理論から生まれた艦隊駆逐艦の様に、高速が不可欠の条件では無くなり、優勢な敵航空勢力に対する防御力の強化、及び対潜攻撃力の充実に主眼が置かれました。

この発案のもとに建造されたのが松型駆逐艦です。戦前理論から生まれた防空駆逐艦秋月型は、特種な艦として誕生しましたが、桜の属する松型駆逐艦は、実戦の経験が教えた必要性によって生まれた点が相違するといえましょう。昭和18年の基本計画は、戦域における種々な任務に活動出来る万能小型艦とし、基本排水量は1260トン。対潜対空兵装は最新装備とし、戦時急造に間に合う小型ターピン機関を搭載の為、速力は低下しましたが、船団護衛等の任務には支障ないものとされました。

又、この艦型で特に重要な事は、大量生産の可能である点があげられます。その為、設計は極力簡易化を計り、工期は正味5ヶ月程を要したのみといわれます。主兵装は12.7センチ高角砲3門、4連装魚雷発射管1基です。魚雷は自衛の為で、

61センチ魚雷4本の外には、次発魚雷を搭載していませんでした。

低速以外は、戦時急造艦ながら、操縦性、凌波性、耐波性共に優れ、対空防御力、対潜攻撃力の強化、被害に強い事等、用兵者から歓迎されました。2本の煙突の間が広く、日本駆逐艦特有の艦形と甚だかけ離れているのは、主機関が罐室一機械室一罐室一機械室と交互に配列された為で、1発の被弾によって航行不能に陥り、撃沈される事が少なくなる好結果を得ました。

桜は昭和19年11月25日、横須賀海軍工廠に於て完成、昭和20年7月10日、船団護衛中、大阪港北突堤沖に於て、機雷に触れて沈没しました。

### 〈桜主要々目〉

基準排水量	1,262トン
水線長	98m
馬力	19,000馬力
速力	27.8ノット
備砲	12.7cm高角砲×3
魚雷発射管	61cm×4
完成年月	昭和19年11月25日

日本の軍艦の塗装は、艦体はいわゆる戦時塗色と言われる少し青みがかった濃い灰色を使っていました。これは1903年(明治36年)末、日露戦争をひかえてこの塗装が採用されて以来、大戦終結までそのままでした。現在の海上自衛艦の船体色とはほぼ同じです。ただ大戦後期になって航空母艦にかぎって薄緑色を使用しました。時には迷彩塗装も使われましたが、これはねずみ色の濃淡のぬり分

けでした。吃水線以下の艦底の色は、マルーンと呼ばれる暗い赤色です。甲板は駆逐艦、軽巡が鉄板張りで艦体と同色、重巡は艦によって鉄板張り、リノリウム張り、板張りと種類が違いますが、リノリウムと板張りは塗装されず、そのままでした。戦艦の甲板、ほとんどの空母の飛行甲板は板張りです。細部では煙突の頂部は黒、後部マストは、上方へは煙突の頂部と同じ高さから9m、下方へ

は煙突の黒色部分の下端までと同じ幅で黒く塗装していました。菊の御紋章は金色、砲身基部やカッターなどのキャンバスのカバーは白がよいでしょう。艦尾にひらがなのが艦名が真ちゅう板で付いていましたが、戦時には艦体と同色に塗りつぶされました。書き出しは右からですので注意して下さい。開戦からしばらくの間、連合艦隊所属艦は識別のために前マスト、檣楼のトップは白でした。

### PAINTING

# SAKURA 桜

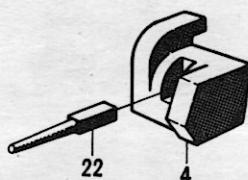
《作る前にお読みください》

★ランナー（枝）から部品を切りはなす場合  
必ずニッパーかナイフ等を使って、ていねい  
に切りはなして下さい。★接着剤は組立てる  
部品の両方に少しづつ付けて接着して下さい。

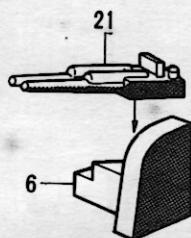
部品請求カード		
1/700 SWM(3枚)		
(部品代)	(消費税)	(送料) = (合計)
船体(上)…100円	3円	130円 23.3円
船底(下)… 80円	2円	130円 21.2円
部品… 100円	3円	190円 29.3円
おもり小1本 30円	1円	130円 16.1円
デカール… 10円	0円	80円 9.0円
説明書… 100円	3円	90円 19.3円
郵便料金		
40045		

●必要な部品を\_\_\_でか  
こみ住所、氏名、郵便  
番号を記入のうえ、こ  
のカードと代わりたま  
て手を当社アマーラ  
ビス係まで、お申し込  
みください。  
●表示価格は予告なく変  
更する場合があります。

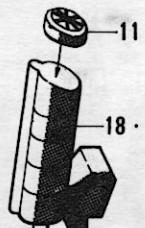
1 高角砲のくみたて(1)



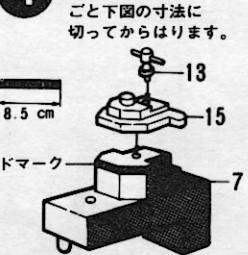
2 高角砲のくみたて(2)



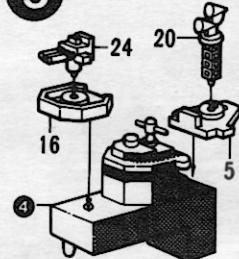
3 エントツのくみたて  
2個つくります。



4 艦橋のくみたて(1)

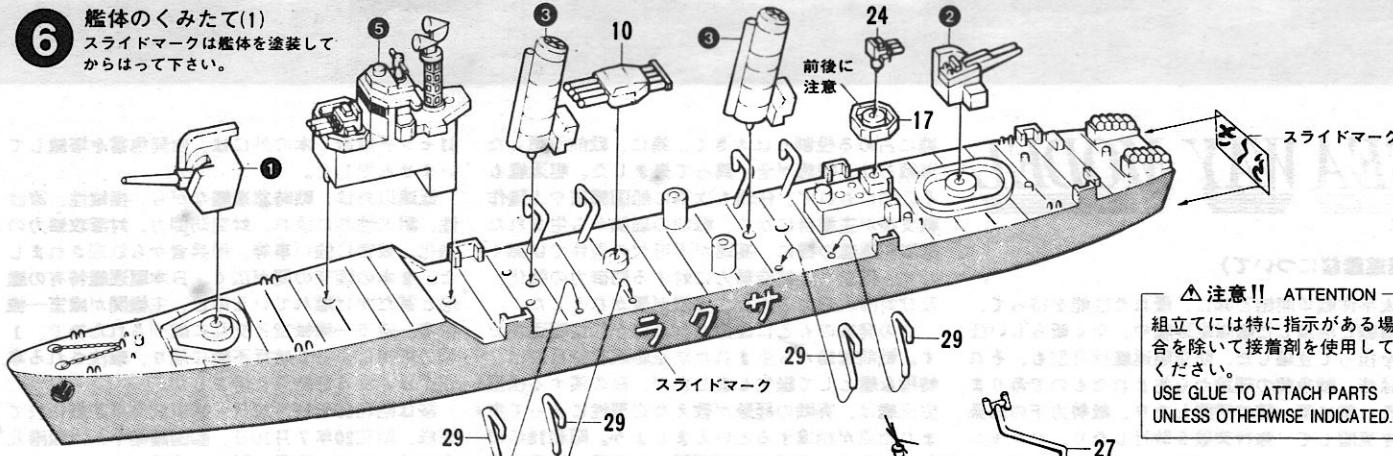


5 艦橋のくみたて(2)



6 艦体のくみたて(1)

スライドマークは艦体を塗装して  
からはって下さい。

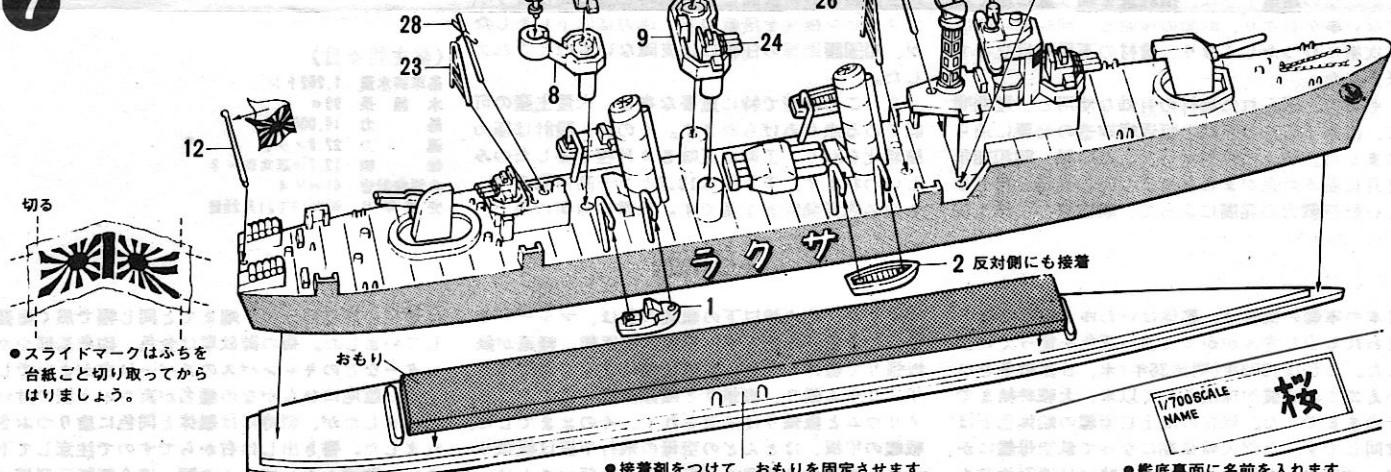


△ 注意!! ATTENTION

組立てには特に指示がある場  
合を除いて接着剤を使用して  
ください。

USE GLUE TO ATTACH PARTS  
UNLESS OTHERWISE INDICATED.

7 艦体のくみたて(2)



●スライドマークはふちを  
台紙ごと切り取ってから  
はりましょう。

●接着剤をつけて、おもりを固定させます。

1/700 SCALE  
NAME 桜



桜データー  
基準排水量 1,262トン  
水 線 長 98cm  
馬 力 19,000馬力  
速 力 27.8ノット  
主 砲 12.7cm高角砲×3  
魚雷発射管 61cm×4  
完成年月 昭和19年11月

